

病虫害防除所情報

オオタバコガ類の被害拡大

- ・オオタバコガの被害作物
野菜類 キャベツ、ハクサイ、インゲン
花き類 シクラメン、パンジー、キンギョソウ
- ・タバコガの被害作物
野菜類 ピーマン

1. 発生経過

都下においてオオタバコガがトマト、ナス、ピーマン、カーネーションおよびガーベラで発生し、被害をもたらしている事はすでに報告した(平成9年8月病虫害発生予察注意報第1号)その後新たに上記作物への発生が確認され、キャベツおよび花き類での被害が著しく、また新たな作物への寄生が拡大し被害をもたらす可能性が強い。上記作物での寄生は1997年10月上旬から11月中旬の間に都内各地から寄生幼虫を採集し室内飼育によって得た成虫に基づいた。このうち特にハクサイおよびシクラメンでの寄生の確認は本報告が初めてであると思われる。

なお、ピーマンでタバコガの寄生が確認され、オオタバコガと合わせて両種による被害が明らかとなった。

2. 形態および発生生態

(1) 形態および生態は平成9年版病虫害防除基準(口絵写真および本文P507)を参照されたい。

(2) 今後寄生と被害が予想される主な寄主作物

東京都においては現在まで未確認であるが、今後オオタバコガの主な寄主作物として、スイートコーン、レタス、オクラ、サヤエンドウ、キクおよびトルコギキョウなどへの寄主拡大とその被害が予想される。また、庭先や自家用に栽培した作物で発生し、本圃で大きな被害をもたらす可能性があるため注意を要する。

(3) 両種の成虫による違いは展翅を行えば明瞭であるが(写真上:タバコガ、下:オオタバコガ)野外活動個体では困難であり、さらに幼虫期での区別は不可能である。

3. 防除対策

(1) 現在、どの作物のオオタバコガに対しても登録農薬はない。ただ、ピーマン、ナスおよびカーネーションでは本種に近縁のタバコガに対して登録農薬がある。

(2) 両種とも実、さや、花蕾に食入するため薬剤による防除が困難である。このため、早期発見早期防除に努め若齢幼虫のうちに駆除する。

(3) ヨトウガ、ハスモンヨトウなどヨトウムシ類に登録のある薬剤のうち、本種に対して有効な薬剤も認められるが、合成ピレスロイドおよびカーバメート剤に対する抵抗性の出現が世界各地から報告されている。

(4) 施設栽培では寒冷沙による開口部の被覆のほか、オオタバコガに対する黄色蛍光灯の点灯による忌避効果が高い。